

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	唐津の海辺の魅力を活かした観光振興事業		
(2) 実施団体名	唐津みなとまちづくり懇話会	(3) 対象地域	佐賀県唐津市唐津湾沿岸地域
(4) 代表団体名	NPO法人 Network Station まつろ	(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①	唐津観光モデルコースの作成		
	実施主体	主担当: 社団法人 唐津観光協会		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 唐津湾沿いの地域資源、マリンスポーツを活用した体験型観光モデルコースの作成及び体験モニターアンケート調査の実施 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 ・実施場所: 唐津湾沿岸地域 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 唐津湾沿いの地域資源やマリンスポーツを活用した体験型観光モデルコースの作成及び体験モニターアンケート調査の実施、交通手段別の海辺散策アクセスルートの提案 ・実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 ・実施場所: 唐津湾沿岸地域(佐賀県ヨットハーバー、西の浜、唐津城、旧高取邸など)
		<ul style="list-style-type: none"> ・取組の目的: 唐津にしかない海辺の魅力を観光客や市民に再認識してもらうとともに、海辺の魅力を活かした新たな観光コースの満足度を把握する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・取組の結果: 9種類のマリンスポーツ体験や唐津湾沿いの観光資源(唐津城、旧高取邸等)を周遊する観光コースを作成した。「体験ツアーに満足」約8割、「また参加したい」9割以上の評価を得ることができ、観光コースの可能性を見出すことができた。 ・まちと海との回遊性向上を図るきっかけとして、唐津来訪者の交通手段別(JR、バス、車、徒歩)の海辺アクセスルートの現況・課題の抽出ならびにアクセス改善に向けた提案を行った。
	取組②	観光戦略の検証・構築		
	実施主体	主担当: 九州大学		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 体験型観光モデルコースの効果、課題の検証、具体的な観光商品の開発、観光戦略の構築及び観光産業等におけるの雇用創出効果等の検討 ・実施時期: 平成20年12月～平成21年2月 ・実施場所: 唐津湾沿岸地域 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 体験型観光モデルコースの効果、課題の検証、具体的な観光商品の開発、観光戦略の構築及び観光産業等におけるの雇用創出効果等の検討 ・実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 ・実施場所: 唐津湾沿岸地域(佐賀県ヨットハーバー、西の浜、唐津城、旧高取邸など)
<ul style="list-style-type: none"> ・取組の目的: 体験モニターアンケート調査を通じて海辺の観光ニーズを掘り起こすとともに、唐津の感性に共感して住み訪れる人を増やす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・取組の結果: 体験モニターアンケート調査によって、市民や観光客の海辺に対する潜在ニーズとして、海の景色やマリンスポーツ、食事を楽しむ場所が求められていることを把握した。 ・海のツーリズム先進事例から、観光振興に向けた事業展開、雇用創出等の観光効果を生み出す事業戦略等を学び、そのノウハウを踏まえた観光戦略を構築した。 		
取組③	観光PRの実施			
実施主体	主担当: NPO法人 Network Station まつろ			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 海辺の魅力を体験できる「唐の津ハーバーフェスタ」、「公開講座」の開催、コミュニティFMの社会実験、シンポジウムの実施 ・実施時期: 平成20年11月～平成21年2月 ・実施場所: 唐津湾沿岸地域 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 海辺の魅力を体験できる「唐の津ハーバーフェスタ」、「公開講座」の開催、ミニFMの社会実験、フォーラム・シンポジウムの開催 ・実施時期: 平成20年10月～平成21年2月 ・実施場所: 佐賀県ヨットハーバー、西の浜海水浴場、唐津シーサイドホテル 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の目的: 観光客や市民にあまり認識されていない唐津の海辺空間の再認識を促すとともに、具体的なイベントを通じた観光振興支援のためのボランティアガイドやマリンスポーツ指導者の人材育成を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・取組の結果: 地元主導による「唐の津ハーバーフェスタ」を2回開催し、各々約600名の参加を記録し、約100名のボランティアスタッフの協力を得て、市民や観光客の海辺に対する意識啓発を行うことができた。 ・同時にミニFMの社会実験を行い、海と陸を繋ぐ情報発信手段としての有効性を検証することが出来た。 ・ヨットやクルーザー、シーカヤックを体験できる公開講座を8回開催し、子供から高齢者まで幅広い年齢層に海辺の魅力を再認識を促すとともに、マリンスポーツ指導者へ人材育成も行うことができた。 ・フォーラムやシンポジウムの開催を通じて、「唐津の海辺の魅力」を市内外に向けてPRできた。 	

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	
	<ul style="list-style-type: none"> 唐津みなとまちづくり懇話会 下記の団体で構成され、それぞれの役割を分担。 社団法人 唐津観光協会(主担当:取組①) 体験型観光モデルコースの企画・作成 九州大学(主担当:取組②) モニターアンケート調査の実施、調査結果の集計・分析、観光戦略の構築 NPO法人 Network Station まつろ(主担当:取組③) 唐津ハーバーフェスタ・公開講座・シンポジウムの企画・運営、 コミュニティFMの社会実験 協力団体【唐津港振興会、商工会議所、市民団体、地元企業、国、県、市】 	<ul style="list-style-type: none"> 取組①:体験型観光コースの企画・作成については、着地型観光商品開発を手がける唐津観光協会ATA事業部が担当。マリンスポーツ体験は佐賀県ヨットハーバーが担当(機材借用、人材支援)、観光施設周遊には地元団体によるボランティアガイドを派遣し、地元主体による体験ツアーを実施することができた。また、唐津市街地全体の回遊性を高めるため、九州大学のサポートにより、海辺とまちのアクセス現状・課題・方向性を整理することができた。 取組②:観光戦略の構築については、九州大学が担当。体験モニターアンケート調査では、観光協会の取組と連携した調査を実施できたほか、マリンスポーツ体験者への聞き取り調査を通じて潜在的な海辺へのニーズを把握し、観光戦略を構築することができた。 取組③:「唐の津ハーバーフェスタ」「フォーラム・シンポジウム」は、市民団体や地元企業、行政による実行委員会を新たに設置し、合計17回にも及ぶ議論の中で地元主体による企画・運営を実施できた。ミニFMの社会実験については、NPO法人 Network Station まつろが担当。 事業の取組が多岐に渡るため、実行委員会事務局(九州大学、唐津市役所)を設置したことで、各取組の事務局機能に加え、関係者間の調整やスケジュール管理が円滑に実施でき、取組内容・スケジュールともにほぼ計画通りに遂行することができた。
(8)取組により得られた成果	○成果1→ 唐津観光コースの作成	
	H19 なし	H20(当初予定していた目標) 3コース作成
	H20(実際に得られた成果)	
	<ul style="list-style-type: none"> マリンスポーツ体験ツアー(10/12)、唐津湾観光資源周遊ツアー(10/24)、ヨットレース・セーリングワルツ観戦ツアー(11/16)による3つの海辺観光ツアーを実施。 上記の体験モニターアンケート調査結果を踏まえ、マリンスポーツ体験を活用した体験型観光モデルコースを年度内に3コース作成(目標達成)。 まちと海との一体的な回遊性向上に向けて、交通手段別(JR(唐津、西唐津)、バス、車、徒歩)の海辺アクセスルートを5コース作成。 	
	○成果2→ 観光戦略の構築	
	H19 なし	H20(当初予定していた目標) 試案作成
	H20(実際に得られた成果)	
	<ul style="list-style-type: none"> 観光コースに関する体験モニターアンケート調査結果及びシンポジウム・先進事例調査を踏まえ、唐津の海辺観光戦略の試案を作成(目標達成)。 地元主体の実行委員会にてヨット大国唐津をPRするプロモーションビデオを作成し、「第2回唐の津ハーバーフェスタ」開催に向けてテレビ・インターネットで情報発信 	
	○成果3→ 海・砂浜を利用したイベントへの来訪者・参加者数の増加	
	H19 11,844人(西の浜ベース)	H20(当初予定していた目標) 13,028人(5年後50%を目指すため、H20は10%増を想定)
H20(実際に得られた成果)		
<ul style="list-style-type: none"> 第1回唐の津ハーバーフェスタでは約700名、第2回唐の津ハーバーフェスタでは約750名、ウォーターフロントフォーラムでは約110名、シンポジウムでは約200名(予定)、公開講座では約280名(計8回)の来訪者・参加者数を記録し、今年度の成果として新規に2,040人を海辺に集客することができた。 平成20年に西の浜で開催されたイベント来訪者・参加者数(12,272人)を加えると、今年度は約14,300人を記録(目標達成)。 唐の津ハーバーフェスタでは、会場の佐賀県ヨットハーバーにはじめて来た人が約7割と、ヨット文化の周知を促し海辺への新規ターゲットを開拓することができた。 		

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンスポーツや唐津湾観光周遊と複合した新たな体験型観光モデルコースを作成することができた。今後は、継続的・発展的な観光集客を獲得するため、旅行会社と連携した「体験型観光商品」の開発に本格的に取り組む必要がある。 ・唐津市を中心としたPR活動を行った結果、唐津市民に海辺の魅力を再認識してもらうことについては、一定の成果を得ることが出来た。今後は、将来的な唐津への来訪・定住の実現化を目指し、地理的に近いアジア・福岡都市圏の居住者などターゲットを広く捉え、「唐津の海辺の魅力」の本格的なプロモーション展開を行う必要がある。 ・唐の津ハーバーフェスタ及び公開講座では、市民や観光客に対して海辺の魅力を再認識を促すとともに、指導者・ボランティア育成についても一定の効果を得ることができた。今後は、海辺の観光ビジネスを生み出すことにより雇用を創出し、暮らしの中で海と関わる人材を増やすための取り組みが必要である。 ・情報発信の社会実験では、唐津湾沿岸地区を対象エリアとし、エリア内の居住者やドライバー、唐津城への観光客に対して「ミニFM」による情報発信を行い、陸上と海上をつなぐ情報ツールとしては一定の効果を得ることが検証できた。今後は、全世界に永続的な情報発信を行うため、世界・アジアの観光客をターゲットに見据えた観光情報ツールの開発に取り組む必要がある。 										
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="338 478 965 507"></th> <th data-bbox="969 478 2072 507">今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="338 510 965 655"> <p>1. 観光モデルコース商品化の本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光コースの旅行会社への提案 ・観光商品としての開発、実用化の検討 </td> <td data-bbox="969 510 2072 655"> <p>1. 旅行会社とタイアップした観光商品開発(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:唐津観光協会ATA事業部と佐賀県ヨットハーバーの連携による ・H20年度に作成した体験型観光モデルコースを活用し、旅行会社(JTB等)との協働により、修学旅行の誘致など本格的な観光商品の開発に取り組む。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 659 965 855"> <p>2. 観光客誘致に向けた検討、本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略に基づきPR活動等を本格展開 ・観光客誘致活動を通じた唐津への来訪・定住の促進 </td> <td data-bbox="969 659 2072 855"> <p>2. 観光客誘致に向けたPR活動の本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:九州大学の主導 ・今年の夏に開催されるヨット世界大会をケーススタディとして、世界40カ国の選手、関係者に唐津の海の魅力をPRするとともに、アンケート調査を通じて海辺都市としての課題、観光ニーズ等を把握する。 ・唐津への来訪・定住の実現化に向けた具体策を構築するため、社会実験(ホームステイ等)を実施する。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 858 965 1230"> <p>3. 「唐津ハーバーフェスタ」の定着化(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「唐津ハーバーフェスタ」の継続、定期開催 ・海辺の魅力体験、魅力づくりを支援する人材育成 </td> <td data-bbox="969 858 2072 1230"> <p>3. 観光ビジネス創出・人材育成に向けたビジネススクール・社会実験の実施(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:唐津みなとまちづくり懇話会元気再生事業実行委員会と九州大学の連携による ・海辺の観光ビジネスに取り組む先進地から講師を招き、海辺の観光ビジネス・雇用創出に向けた「ハーバービジネススクール」を行い、将来の担い手となる人材の本格的な育成に取り組む。 ・マリンスポーツの先進地との交流を強化し、ヨットレース・体験教室を共同で開催するなど、唐津のマリンスポーツ振興に向けた地域間連携に取り組むことで、継続的な拡がりを持った海辺振興・人材ネットワーク構築を促進する。 ・アンケートにより把握したニーズ(食事ができる場所が必要など)を踏まえ、海辺の空地・空き店舗等を活用した交流拠点創出の社会実験(ハーバーカフェなど)を実施し、海辺の新たな観光ビジネス創出を目指す。 ・より多くの市民へ海辺の魅力を再認識を促すため、地元の小学校、中学校と連携して、将来を担う子供たちを対象にマリンスポーツ体験を実施する。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1233 965 1457"> <p>当初提案になし</p> </td> <td data-bbox="969 1233 2072 1457"> <p>4. 海辺に誘う観光情報ツールの開発・社会実験の実施(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO Network Station まつろと九州大学の連携による ・将来的には世界の観光地を目指すため、世界・アジアの観光客を海辺に誘い回遊してもらう観光情報ツールとして、外国語表記(英語、韓国語など)による海辺案内マップやホームページの開発に取り組む。 ・今年度九州大学が実施した海辺アクセス調査の結果を活用し、まちから海辺へと誘う案内標識の社会実験を実施し、その効果・課題を検証することで将来的にハード面のアクセス改善に繋げる。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)】</p> </td> </tr> </tbody> </table>		今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度	<p>1. 観光モデルコース商品化の本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光コースの旅行会社への提案 ・観光商品としての開発、実用化の検討 	<p>1. 旅行会社とタイアップした観光商品開発(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:唐津観光協会ATA事業部と佐賀県ヨットハーバーの連携による ・H20年度に作成した体験型観光モデルコースを活用し、旅行会社(JTB等)との協働により、修学旅行の誘致など本格的な観光商品の開発に取り組む。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p>	<p>2. 観光客誘致に向けた検討、本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略に基づきPR活動等を本格展開 ・観光客誘致活動を通じた唐津への来訪・定住の促進 	<p>2. 観光客誘致に向けたPR活動の本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:九州大学の主導 ・今年の夏に開催されるヨット世界大会をケーススタディとして、世界40カ国の選手、関係者に唐津の海の魅力をPRするとともに、アンケート調査を通じて海辺都市としての課題、観光ニーズ等を把握する。 ・唐津への来訪・定住の実現化に向けた具体策を構築するため、社会実験(ホームステイ等)を実施する。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)】</p>	<p>3. 「唐津ハーバーフェスタ」の定着化(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「唐津ハーバーフェスタ」の継続、定期開催 ・海辺の魅力体験、魅力づくりを支援する人材育成 	<p>3. 観光ビジネス創出・人材育成に向けたビジネススクール・社会実験の実施(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:唐津みなとまちづくり懇話会元気再生事業実行委員会と九州大学の連携による ・海辺の観光ビジネスに取り組む先進地から講師を招き、海辺の観光ビジネス・雇用創出に向けた「ハーバービジネススクール」を行い、将来の担い手となる人材の本格的な育成に取り組む。 ・マリンスポーツの先進地との交流を強化し、ヨットレース・体験教室を共同で開催するなど、唐津のマリンスポーツ振興に向けた地域間連携に取り組むことで、継続的な拡がりを持った海辺振興・人材ネットワーク構築を促進する。 ・アンケートにより把握したニーズ(食事ができる場所が必要など)を踏まえ、海辺の空地・空き店舗等を活用した交流拠点創出の社会実験(ハーバーカフェなど)を実施し、海辺の新たな観光ビジネス創出を目指す。 ・より多くの市民へ海辺の魅力を再認識を促すため、地元の小学校、中学校と連携して、将来を担う子供たちを対象にマリンスポーツ体験を実施する。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)】</p>	<p>当初提案になし</p>	<p>4. 海辺に誘う観光情報ツールの開発・社会実験の実施(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO Network Station まつろと九州大学の連携による ・将来的には世界の観光地を目指すため、世界・アジアの観光客を海辺に誘い回遊してもらう観光情報ツールとして、外国語表記(英語、韓国語など)による海辺案内マップやホームページの開発に取り組む。 ・今年度九州大学が実施した海辺アクセス調査の結果を活用し、まちから海辺へと誘う案内標識の社会実験を実施し、その効果・課題を検証することで将来的にハード面のアクセス改善に繋げる。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)】</p>
	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度										
<p>1. 観光モデルコース商品化の本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光コースの旅行会社への提案 ・観光商品としての開発、実用化の検討 	<p>1. 旅行会社とタイアップした観光商品開発(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:唐津観光協会ATA事業部と佐賀県ヨットハーバーの連携による ・H20年度に作成した体験型観光モデルコースを活用し、旅行会社(JTB等)との協働により、修学旅行の誘致など本格的な観光商品の開発に取り組む。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p>										
<p>2. 観光客誘致に向けた検討、本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略に基づきPR活動等を本格展開 ・観光客誘致活動を通じた唐津への来訪・定住の促進 	<p>2. 観光客誘致に向けたPR活動の本格展開(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:九州大学の主導 ・今年の夏に開催されるヨット世界大会をケーススタディとして、世界40カ国の選手、関係者に唐津の海の魅力をPRするとともに、アンケート調査を通じて海辺都市としての課題、観光ニーズ等を把握する。 ・唐津への来訪・定住の実現化に向けた具体策を構築するため、社会実験(ホームステイ等)を実施する。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)】</p>										
<p>3. 「唐津ハーバーフェスタ」の定着化(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「唐津ハーバーフェスタ」の継続、定期開催 ・海辺の魅力体験、魅力づくりを支援する人材育成 	<p>3. 観光ビジネス創出・人材育成に向けたビジネススクール・社会実験の実施(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:唐津みなとまちづくり懇話会元気再生事業実行委員会と九州大学の連携による ・海辺の観光ビジネスに取り組む先進地から講師を招き、海辺の観光ビジネス・雇用創出に向けた「ハーバービジネススクール」を行い、将来の担い手となる人材の本格的な育成に取り組む。 ・マリンスポーツの先進地との交流を強化し、ヨットレース・体験教室を共同で開催するなど、唐津のマリンスポーツ振興に向けた地域間連携に取り組むことで、継続的な拡がりを持った海辺振興・人材ネットワーク構築を促進する。 ・アンケートにより把握したニーズ(食事ができる場所が必要など)を踏まえ、海辺の空地・空き店舗等を活用した交流拠点創出の社会実験(ハーバーカフェなど)を実施し、海辺の新たな観光ビジネス創出を目指す。 ・より多くの市民へ海辺の魅力を再認識を促すため、地元の小学校、中学校と連携して、将来を担う子供たちを対象にマリンスポーツ体験を実施する。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)】</p>										
<p>当初提案になし</p>	<p>4. 海辺に誘う観光情報ツールの開発・社会実験の実施(H21～22年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO Network Station まつろと九州大学の連携による ・将来的には世界の観光地を目指すため、世界・アジアの観光客を海辺に誘い回遊してもらう観光情報ツールとして、外国語表記(英語、韓国語など)による海辺案内マップやホームページの開発に取り組む。 ・今年度九州大学が実施した海辺アクセス調査の結果を活用し、まちから海辺へと誘う案内標識の社会実験を実施し、その効果・課題を検証することで将来的にハード面のアクセス改善に繋げる。 <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)】</p>										

◆主な実施取組の内容◆

取組①: 唐津観光モデルコースの作成

実施主体: 社団法人 唐津観光協会

実施内容・結果: ・唐津湾沿いの地域資源やマリンスポーツを活用した体験型観光モデルコースの作成, 体験モニターアンケート調査の実施.

(H20.10~H21.2, 唐津湾沿岸地域)

・「体験ツアーに満足」約8割, 「また参加したい」9割以上の評価.
観光コースの可能性を見出すことができた.

●モニターツアーの様子

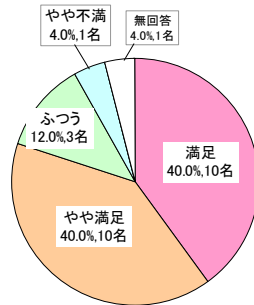
マリンスポーツ体験型(10/12)



観光施設周遊型(10/24)



●体験ツアーの満足度(10/24日)



取組②: 観光戦略の検証・構築

実施主体: 財団法人 九州大学

実施内容・結果: ・体験モニターアンケート調査を通じて, 取組①の体験型観光コースの効果・課題
・海辺への潜在的ニーズの検証を行い, 具体的な観光商品開発, 観光戦略を構築.
(H20.10~H21.2, 唐津湾沿岸地域)

モニターアンケート調査



取組③: 観光PRの実施

実施主体: NPO法人 Network Station まつろ

実施内容・結果: ・海の魅力を体験できる「唐の津ハーバーフェスタ」, 公開講座, ミニFMの社会実験, フォーラム・シンポジウムを開催.
(H20.10~H21.2, 佐賀県ヨットハーバー, 西の浜ほか)
・唐の津ハーバーフェスタ(2回開催)には, 各々約600名の来場者, 約100名のボランティアスタッフを得て, 市民や観光客の海辺に対する意識啓発を行うことができた.
・ミニFM社会実験を行い, 海と陸を繋ぐ情報ツールの有効性を検証.
・体験型公開講座を8回開催し, 子供から高齢者まで幅広い年齢層に海の魅力をPRし, マリンスポーツ指導者の人材育成にも寄与.
・フォーラム・シンポジウムを通じて, 「海辺の魅力」を市内外にPR.

●読売新聞081023

内閣府の地方元氣再生事業「唐の津」が、市民・観光客に対する海辺への魅力を再認識させる。唐津の海辺の魅力を活かした観光振興事業の第一歩として「唐の津ハーバーフェスタ」が12月10日、同市のヨットハーバーで開かれ、唐津湾の魅力を再認識させる。唐津市は、唐津湾の魅力を活かした観光振興事業の第一歩として「唐の津ハーバーフェスタ」を開催する。唐津市は、唐津湾の魅力を活かした観光振興事業の第一歩として「唐の津ハーバーフェスタ」を開催する。唐津市は、唐津湾の魅力を活かした観光振興事業の第一歩として「唐の津ハーバーフェスタ」を開催する。

第1回唐の津ハーバーフェスタ



体験型公開講座



●佐賀県ヨットハーバーへの来訪回数(10/12)



ウォーターフロントフォーラム



◆取組実施による成果・今後の展開◆

今年度の取組を通じて, ①マリンスポーツや周遊観光と複合した新たな体験型観光モデルコースを3コース作成, ②体験モニターへのアンケート調査を通じて, 海辺への潜在的ニーズを発掘し, 海辺の観光戦略を構築, ③唐の津ハーバーフェスタや公開講座, シンポジウムの開催を通じて, 市民・観光客に対する海辺への魅力の再認識・指導者・ボランティアの人材育成を促すとともに, 目標人数を上回る集客に成功, などの成果を収めることができた.

今後は, 将来的な唐津への来訪・定住の実現化及び雇用を生み出す観光ビジネスの創出・人材育成を再生の軸に立て, 旅行会社とタイアップした観光商品開発や観光客誘致に向けたPR活動の本格展開及び観光情報ツールの開発, 観光ビジネス創出・人材育成に向けたビジネススクール・社会実験等を地元と大学が連携して実現化を図る.